

語彙力支援

～ 語彙獲得の基本と支援の視点～



R6.2.7 なないろ

【語彙力を伸ばす必要性】

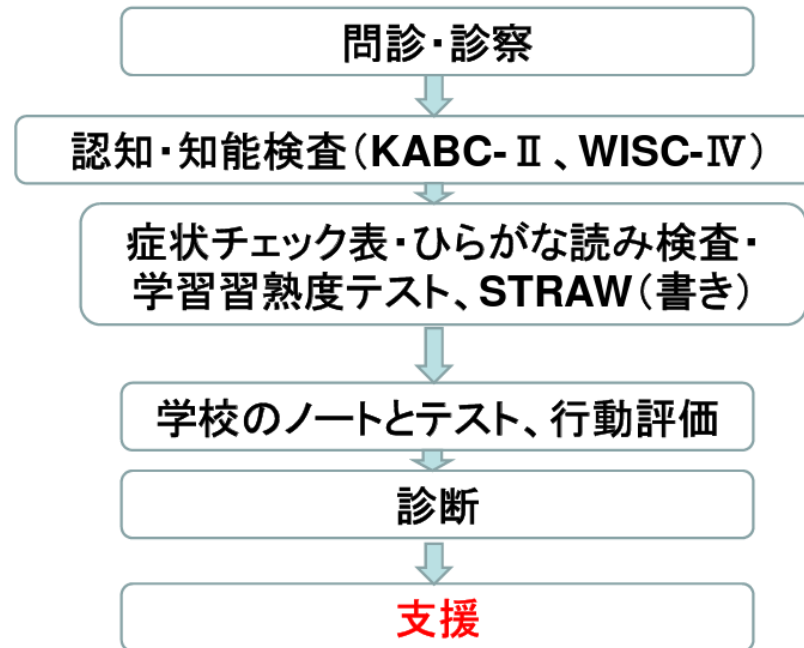
子どもの読解力の低下

読解力とは・・・

「日本語を正しく理解して文章や問題を読み解く力」

読解力の低下の原因こそが、語彙力の低下にある

発達性読み書き障害 (DD) の診断・支援の現状



全人的支援:

- ・子どもの良さを伸ばす。(トッパップ)
- ・心身の健康、コミュニケーション、行動・社会性、社会参加、学習、身辺自立を促す。

トッパダウン:

将来の習熟到達段階を予測して、生きる力につながる学習内容を精選する。生活を題材に学習する。

ボトムアップ:

習熟段階に合った達成可能な学習内容・量を精選する。一斉授業では今している学習とのギャップをヒントカード、助言等で補い、理解のために個別指導等を行う。
DDに特化した文字の音声化、語彙力指導を強化する。

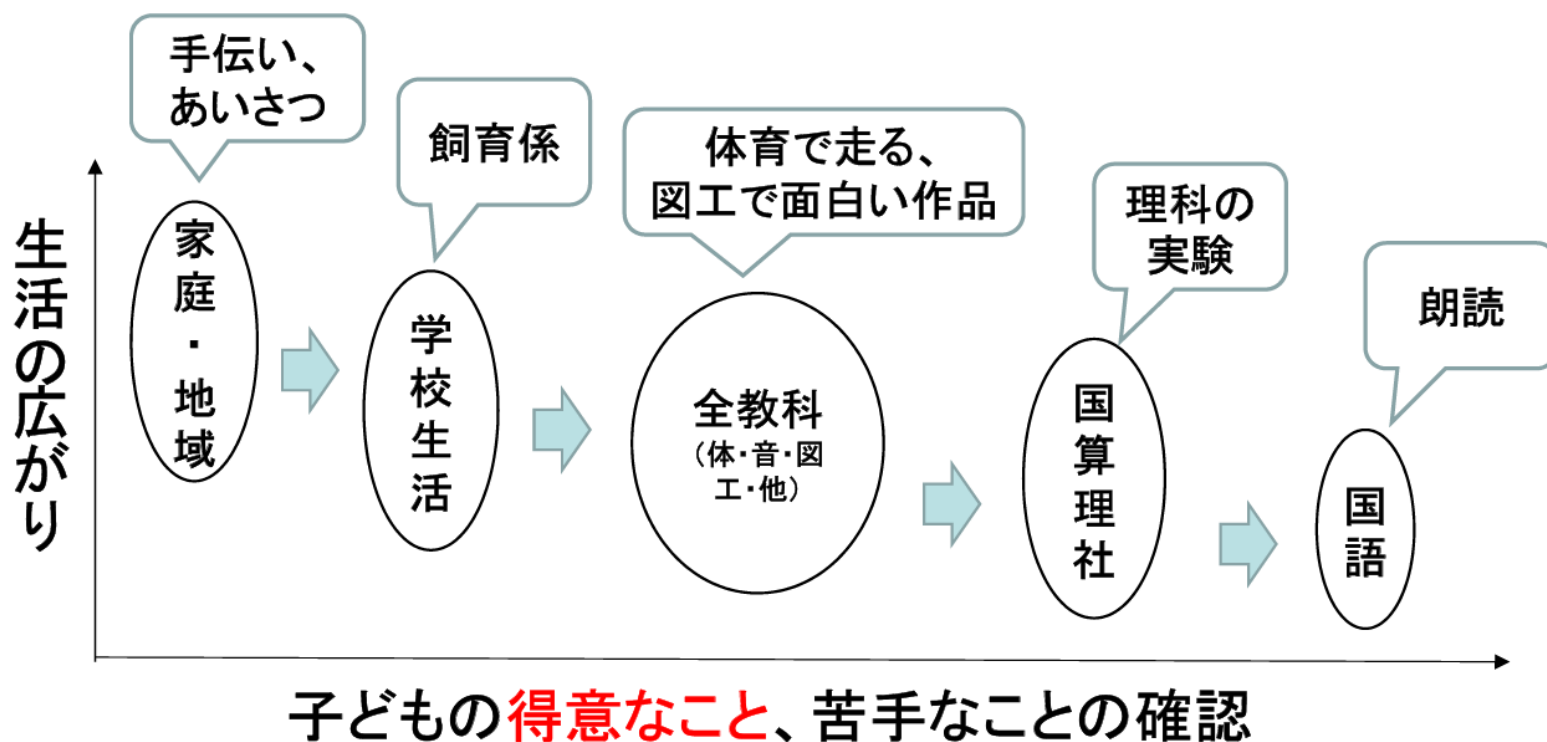
全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす (トツプアツプを目指す)

- ・健康では生活のリズム、心の安定
- ・コミュニケーションでは、自分からの発信、意志を伝える。
- ・行動・社会性では、対人関係を調整、集団参加を促す。
- ・学習では、初めに得意分野(教科)を伸ばし、苦手分野は必要最小限に精選する。
- ・身辺自立では、手伝いを通して将来の生活に役立つ自立を目指す。

全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす

今できること？（能力）
今していること？（実行状況）

具体例：



DD児者指導・支援の要点

(安藤、Jpn.J.Learn.Disabilit. 25:431、2016)を部分修正

NICHDの報告(NRP2000)によると、DDに対する科学的根拠に基づく効果的な指導に不可欠な5つの要素:

- ①音素・音節
- ②フォニックス
- ③語彙発達
- ④流暢性(音読技術を含む)
- ⑤読解方略

これらを、明示的、直接的、体系的に指導する。

①音素・音節

- ・**アルファベット**の大文字、小文字の双方の読み方(**音素**:音の最小単位)と形を知ることが読みと綴りの指導に必要。
- ・**音節**は、一定の時間的長さをもつ音の分節。**1の母音**をもつ**言語**の単位、1音節。音節は**話し言葉**と**書き言葉**をつなげる**役目**がある。
- ・音節認識は、就学前幼児の**運動**(階段上り、ケンケンパーなど)しながら**音節(モーラ・拍)**を**唱える、しりとり、逆さま言葉、ためき言葉**などの言葉遊びで育つ。

②フォニックス

フォニックスとは、英語44字の綴り字と発音との規則性をいう。これを学ぶと単語を正確に認識し、見慣れない単語も読む力を育てる。

文字の音声化 (例) a : b a g

綴り字・アルファベット読み エイ : ビー エイ ジー

発音・フォニックス読み あ : ば あ ぐ(ばっぐ)

・日本語では、特殊音節の習得に困難が伴うために、特殊音節の規則性を早期介入することが行われている。

例: 促音～ら**っ**ぱ、長音～が**っ**こう、撥音～ほ**ん** : 1拍

拗音～きゃく、きゅうり、きょう : 前と合わせて1拍

③語彙発達

語彙発達として、単語の**意味を理解**することを指導する。

- ・語彙指導で大切にすべきことは、
 - 子どもの**興味関心**や**問題意識**から出発すること、
 - 実体験**や**日常生活**の中で子どもが**選択したトピックス**をテーマとすること、
 - 精選された**語彙リスト**を意図的・計画的に用意すること、
 - 動機付け**を高めながら子どもの**主体的な活動**を繰り返す。

④ 流暢性

流暢性とは、文章を**正確に素早く読み**、単語を認識し、**意味を読み取る**能力である。

指導法は、指導者が**お手本**を示し、先生や仲間から**フィードバックと励まし**を受けながら子どもは**音読**する。

・具体的指導の手順：

①指導者が読み（**範読**）、子どもは**話し言葉として**理解し、②それを**手がかり**に、子どもは既知知識と結び付けて**音読**する、③うまく読めているか**モニタリング**（自分で、ICレコーダーで振り返る）をし、**成功経験**を持つ。

⑤読解方略

読解方略とは、**読んだこと**や**ものの意味**を理解するための方略である。

これにはメタ認知的方略がある。メタ認知とは、考えることを考えることで、自分の**読みのプロセス**を意識している状態。

・具体的には、子どもと**やり取り**して、**要旨をまとめる**

①ストリート・マップ(小分けして**図解**)、グラフィック・オーガナイザー(図や表などで**視覚的に**提示)、意味論的オーガナイザー(**意味のつながり**や**関係**を**視覚的に**提示)などで理解を助ける。

・仲間と**話し合い**、**書く**機会のある協働学習で**学習経験**を増やし、**記憶**を定着する。

記号と音との対応

- ・DDの子は友達や先生の名前が思い出せないことがある。
- ・読む場合は文字記号から音を想起(デコーディング:音声化)できない。
- ➡ 音節認識を刺激するにはしりとり遊びが良い。
- ➡ 文字学習で絵付の五十音表は効果がある
- ➡ 平仮名が読めない時には、子どもに合わせて作成したフラッシュカードで練習する。
～毎回、目に見える成果を確認する。

新しい**単語**への対応

(Shaywitz, 藤田訳、PHP研究所、2006)

- ・上手に読むには**話し言葉の語彙**を増やしておく
- ・語彙を増やすには、単語を自分の**経験と結びつけ**て考えられるようにしておく。
- ・教える単語は、子どもの**経験から理解できる**単語、生活に**使える**単語、**役立つ**単語を選ぶ。
- ・単語を**カテゴリーに分けて覚えると、意味理解**につながる。
 - 場所、動物、感情などを表す単語
 - 意味が反対の単語、など
- ・カテゴリー化で**話し合うことは知識を活性化**する。

語彙を増やす

- ・子どもの日常生活の中で出会った単語を覚え、一般的知識を習得する。
- ・語彙の指導は子どもが多くの例を知り、たくさん話し合う。また、単語の説明とともに絵や図で示す。
- ・子どもの語彙を増やすには、子どもの興味(スポーツ、ペット、車、宇宙、など)を機動力とする。
- ・子どもの“経験に伴って出てきた言葉に間違った答えなどない”という姿勢で、一緒に話し合う。

読解力を育てる3つのレッスン

「読み聞かせ」における3つの方法：

1. 本を開く前
・本の中身(挿絵など)をざっと見る。
・興味と結びつけ、予備知識を活性化させる。
2. 本を読みながら
・この後どうなると思う？
・区切り、あらすじを要約させる。
3. 本を読んだ後
・本のあらすじを説明させる。
・あらすじを図に描いて示す
・それをどう思うか？

流暢に読むための方法

- ・ **繰り返し読み**(repeated reading)
- ・ **フィードバック付反復音読指導法**(guided repeated oral reading: GROR)
 - ・・・聞いて、修正フィードバックする
- ・ **ペア読み**(paired reading)
 - ・・・2人1組になって読む
- ・ **シェア読み**(shared reading)
 - ・・・文章の一部を読む
- ・ **呼応読み**(echo reading)
 - ・・・教師の手本どおり読む

指さし
も併用

読みの負担の軽減

- ・事前に教科書を読んであげて耳から聞いて理解させておく。
- ・わからない語彙を教えておく。
- ・漢字に振り仮名を振る。
- ・単語や文節の区切りに斜線を入れる。
- ・手作りの録音テープを用意する。
- ・電子辞書、携帯電話の利用を許可する。
- ・別室で読み上げ試験を行う。
- ・2行程度の穴を開けた下敷きを利用する。
- ・読みと関係ない活動、絵や工作、手芸、スポーツなどでストレスを発散しておく。

親が**流暢な音読**を育てる

子どもは2年生の半ば頃から流暢に読める。

そのために親ができること：**反復音読**を最優先に！

- ・音読を聞いてやる。できれば**毎晩**。1回の長さより**継続が重要**
- ・一緒に読み練習；**1晩10～15分**（少なくとも**5分**）。
親が、親子一緒に、子どもが一人で。
1段落、1頁、1章毎など。

- ・はじめに**少し読んで**同じ箇所を子どもに読ませる、一緒に音読するのも良い。
- ・同じ本を2冊用意して、読んでいる所を**指差し**する。